

V-Drums TD-27KV セットアップ・ガイド

この機器を正しくお使いいただくために、ご使用前に本書と付属品の「安全上のご注意」と「使用上のご注意」をよくお読みください。

お読みになったあとは、すぐに見られるところに保管しておいてください。

© 2020 Roland Corporation

1 同梱物を確認しよう

パッケージを開いたら、すべてのものが入っているか確認してください。不足している場合は、お買い上げになった販売店にお問い合わせください。

TD-27KV (ドラム・セット)

- TD-27 (ドラム音源) × 1
- PD-140DS (Vパッド・デジタル・スネア) × 1
- CY-18DR (Vシンバル・デジタル・ライド) × 1
- VH-10 (Vハイハット) × 1
- KD-10 (キック・パッド) × 1
- PDX-100 (Vパッド) (タム1、2、3) × 3
- CY-12C (Vシンバル) (クラッシュ1) × 1
- CY-13R (Vシンバル) (クラッシュ2) × 1

取扱説明書

- TD-27KV セットアップ・ガイド (本書)
- TD-27 クイック・スタート
- PD-140DS 取扱説明書
- CY-18DR 取扱説明書
- VH-10 取扱説明書
- KD-10 取扱説明書
- PDX-100 取扱説明書
- CY-13R / CY-12C 取扱説明書

ケーブル類

- 専用接続ケーブル × 1 (TD-27 同梱)
- トリガー・ケーブル × 1
- 接続ケーブル × 2 (PD-140DS、CY-18DR 同梱)

※ TD-27、PD-140DS、CY-18DR の付属品は、それぞれの梱包箱に入っています。

MDS-Standard 2 (ドラム・スタンド)

※ ドラム・スタンドの付属品は、「MDS-Standard 2 取扱説明書」を見ながら確認してください。

※ このパッケージには、キック・ペダル、ハイハット・スタンド、スネア・スタンドは含まれていません。市販のものをお使いください。

※ パッド類の取り付けに使うドラム・キーは、ドラム音源の梱包箱に入っています。

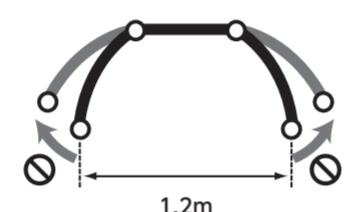
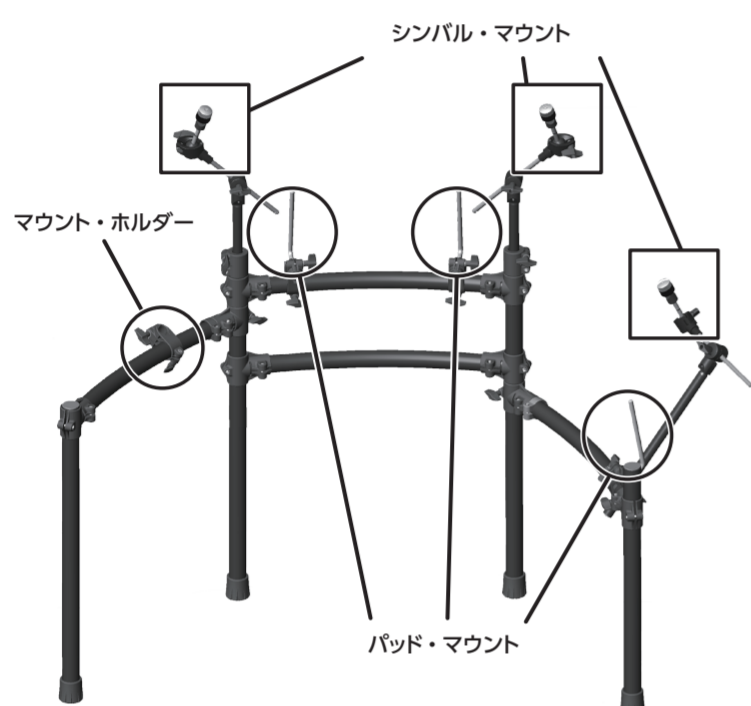
2

ドラム・スタンド (MDS-Standard 2) を組み立てよう

組み立ての手順

「MDS-Standard 2 取扱説明書」の手順に従って、ドラム・スタンドを組み立ててください。

※ このドラム・スタンドの図は、右利き用です。左利き用にセッティングする場合は、「MDS-Standard 2 取扱説明書」の「左利き用に組み立てる場合」の手順に沿って組み立ててください。



※ 両端のスタンド脚パイプの距離を 1.2m 以上離さないでください。ドラム・スタンドが倒れて、けがをされる恐れがあります。

3

ハイハット (VH-10) を組み立てよう

組み立ての手順

1. ハイハット・スタンド (市販) に付属しているクラッチを、シンバル・ロッドからはずします。

※ ハイハット・スタンドに付属のクラッチは、使いません。
※ ハイハット・スタンドの、ボトム・シンバルを載せるシンバル受け部分のフェルト部品 (またはゴム部品) を、取りはずす必要はありません。

2. シンバル・ロッドが、しっかり締めつけられていることを確認します。

シンバル・ロッドの締めつけかたについては、お使いのハイハット・スタンドの取扱説明書をご覧ください。

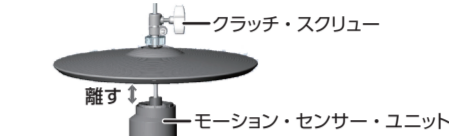
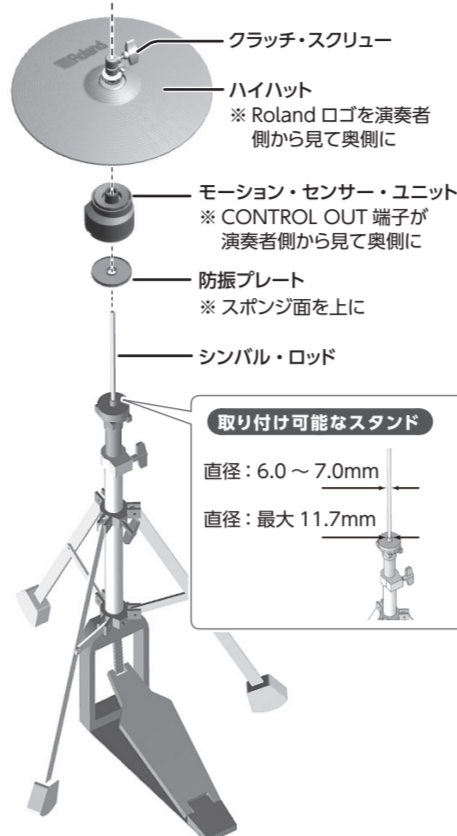
※ シンバル・ロッドがゆるむと、ハイハットが振動したり回転したりして安定せず、誤動作の原因になります。

3. 防振プレートのスポンジ面を上側にし

て、シンバル・ロッドに通します。ハイハット・スタンドのシンバル受け部分のフェルト部品 (またはゴム部分) の上に載った状態になります。

参照

ハイハットの詳細については、「VH-10 取扱説明書」をご覧ください。



※ 本機を裏返すときは、破損を防ぐためクラッチ部やセンサー部などを保護してください。また、落下や転倒を引き起こさないよう取り扱いに注意してください。

4

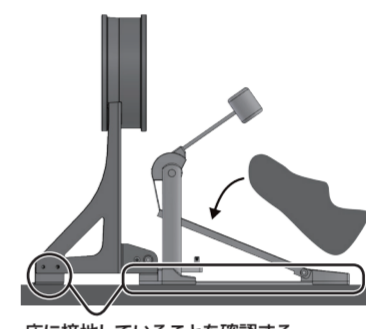
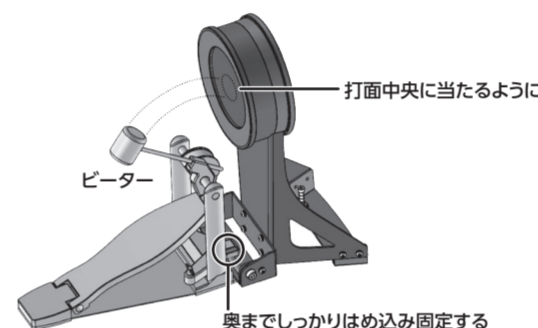
キック (KD-10) を組み立てよう

組み立ての手順

1. KD-10 に、キック・ペダル (市販) を取り付けます。ピーターの位置が KD-10 の打面中央に当たるように調節し、キック・ペダルと KD-10 を確実に固定します。

※ 指をはさまないよう、十分に注意してください。

2. キック・ペダルを踏んで、取り付けを安定させます。KD-10 とキック・ペダルが、床に接地していることを確認してください。



参照

キックの詳細については、「KD-10 取扱説明書」をご覧ください。

5

ドラム・スタンドに各パーツを取り付けよう

各パーツの取り付けには、付属のドラム・キーをお使いください。

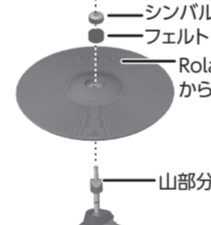
※ 本ガイドで説明しているセッティングは、右利き用です。左利き用のセッティングにする場合は、次ページ「左利き用のセッティングにする場合」をご覧ください。

※ 各パーツの詳細については、各パーツの取扱説明書をご覧ください。

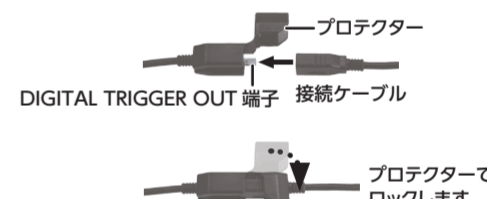
クラッシュ・シンバル (CY-12C / CY-13R) とライド・シンバル (CY-18DR) を取り付ける

- シンバル・マウントの山部分とシンバル底面の谷部分が合うように載せます。
- 適度な揺れが得られるように、シンバル・ナットを締めます。

※ ドラム・スタンドに付属のシンバル・ナットとフェルト・ワッシャーをお使いください。

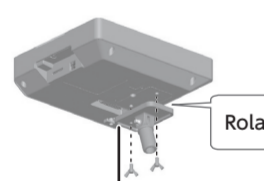


ライド・シンバル (CY-18DR) の DIGITAL TRIGGER OUT 端子に、CY-18DR 付属の接続ケーブルのプラグを差し込みます。



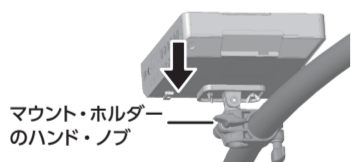
ドラム音源 (TD-27) を取り付ける

1. 付属の蝶ネジを使って、音源マウンティング・プレートをドラム音源に取り付けます。



音源マウンティング・プレート

2. ドラム・スタンドのマウント・ホルダーのハンド・ノブをゆるめて、音源マウンティング・プレートを差し込みます。



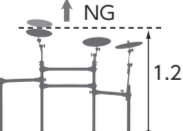
3. ドラム音源に付属のドラム・キーで、音源マウンティング・プレートの角度を調節します。

ハイハット (VH-10) を設置する

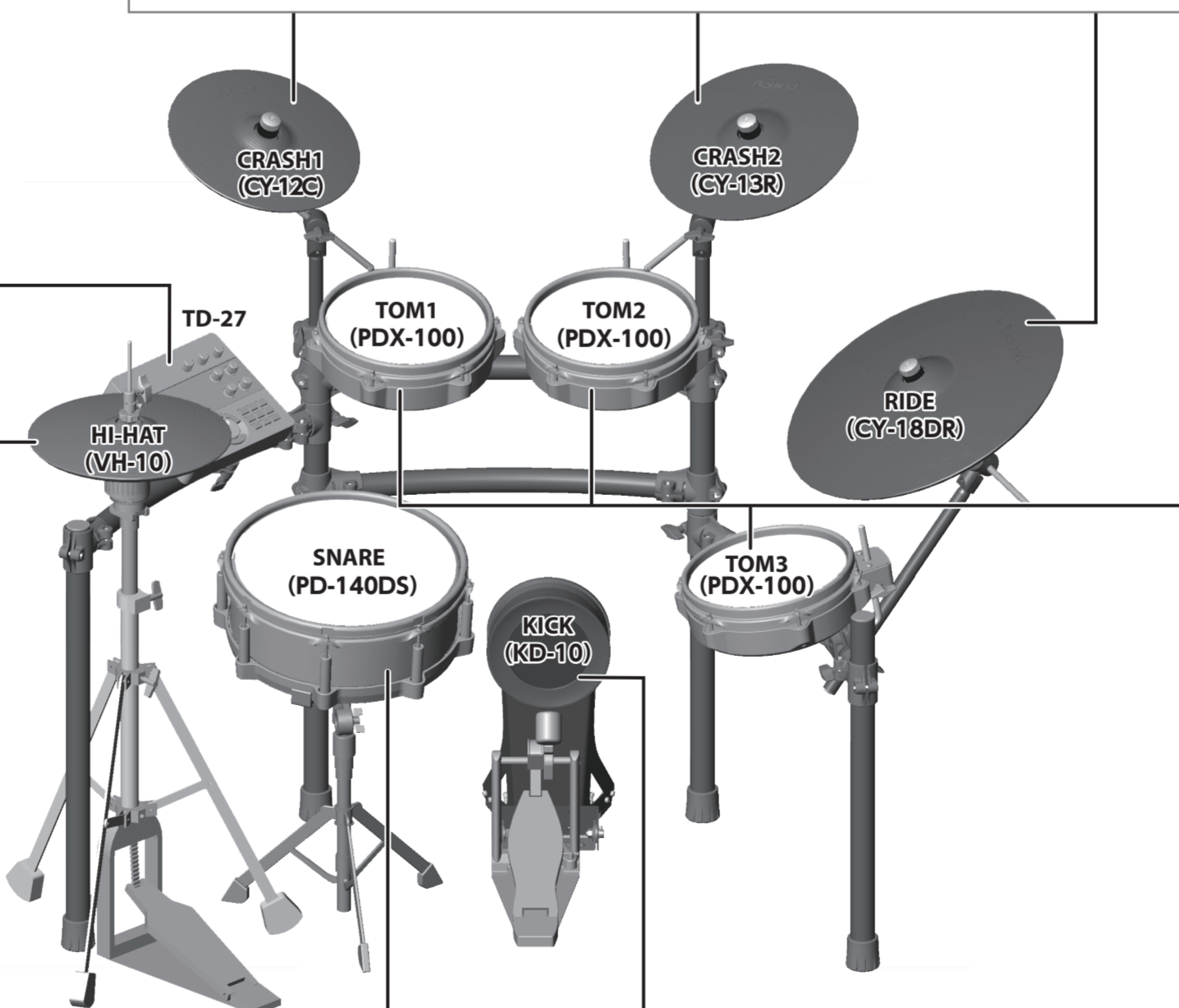
Roland ロゴが、演奏者側から見て奥側になるように、設置します。

シンバルの位置調整

シンバルの最も高い部分が 1.2m 以下になるように、ロッドの高さを調節してください。



シンバルの中心が、ドラム・スタンドから後ろにはみ出さないこと。



タム (PDX-100) を取り付ける



ヘッドの張り具合を調節する

適切な打感が得られる張り具合に調節してください。

※ ヘッドをやや強めに張ってください。

- チューニング・ボルトを少しずつ、図のように対角線に結び順に調節します。
- ヘッドの張り具合が均等になるように、各チューニング・ボルトの締め具合を調整します。

チューニング・ボルト

注意

ヘッドの張り具合の調節は、打感の調節をするもので、アコースティック・ドラムのように音の高さ (ピッチ) を調節するものではありません。ピッチは、ドラム音源の音色エディットで調節します。詳しくは、「TD-27 クイック・スタート」をご覧ください。

スネア (PD-140DS) をスネア・スタンドに取り付ける

スネア・スタンド (市販) に取り付け使用してください。

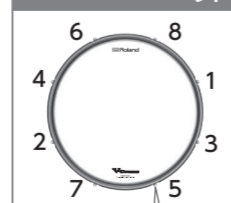
※ 必ず 14 インチのスネアに対応した、スネア・スタンドをお使いください。

スネア (PD-140DS) の DIGITAL TRIGGER OUT 端子に、PD-140DS 付属の接続ケーブルのプラグを差し込みます。



プロテクターでロックします。

ヘッドの張り具合を調節する



チューニング・ボルト

適切な打感が得られる張り具合に調節してください。

※ ヘッドをやや強めに張ってください。

1. チューニング・ボルトを少しずつ、図のように対角線に結び順に調節します。

2. ヘッドの張り具合が均等になるように、各チューニング・ボルトの締め具合を調整します。

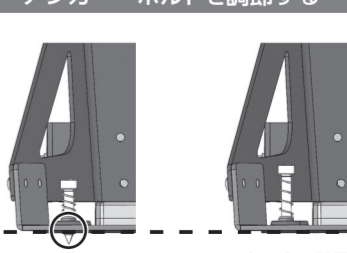
キック (KD-10) を設置する

V-Drums マットやキック用防振アイテム「ノイズ・イーター」(NE-10)、またはカーペットの上で使用するときは、アンカー・ボルトを出して使うと、本機が固定されて演奏しやすくなります。

※ フローリングなどの床の上でアンカー・ボルトを使用すると、床を傷つける恐れがあります。

※ アンカー・ボルトの先端はとがっていますので、取り扱いにご注意ください。

アンカー・ボルトを調節する



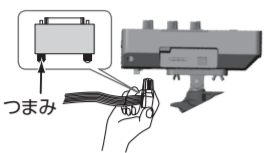
4 5 1 0 0 0 6 8 7 9 1 1 0 1

6 パッドとドラム音源を接続しよう

※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。

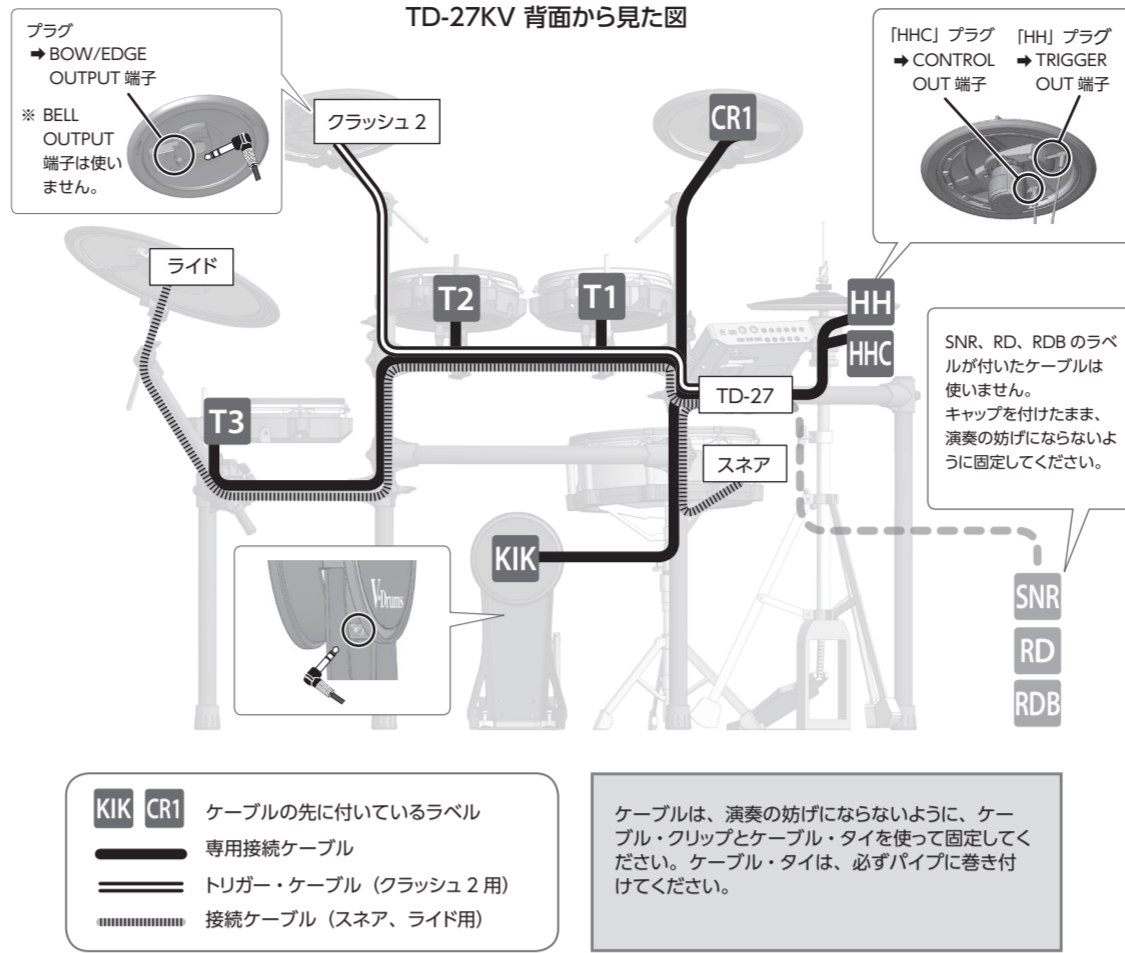
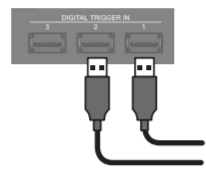
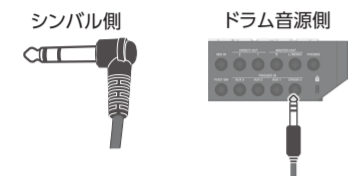
接続の手順

- 専用接続ケーブルを、ドラム音源底面の TRIGGER INPUT 端子に接続します。
コネクタを奥まで差し込み、つまみを回して固定してください。
- ケーブルの先には、接続するパッドを示したラベルが貼られています。右図を参考に接続してください。



※ プラグは確実に奥まで差し込んでください。

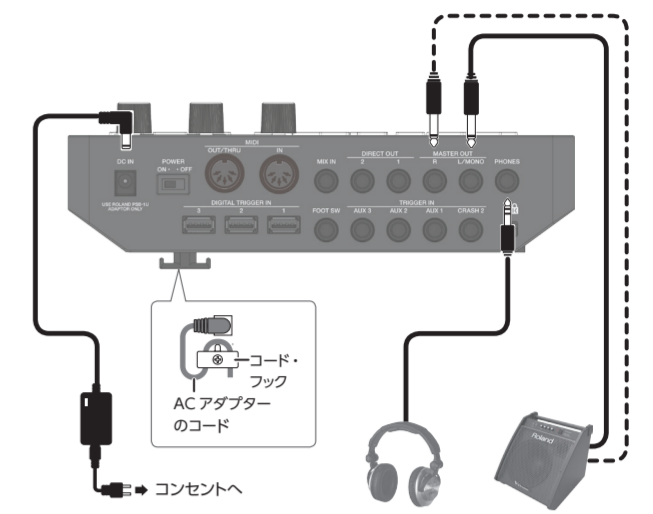
- クラッシュ 2 は、付属のトリガー・ケーブルを使って、ドラム音源背面の TRIGGER IN 端子の CRASH 2 端子に接続します。
※ CY-13R はクラッシュ・シンバルとして使用しません。ベル・ショットはできません。
- スネア (PD-140DS) とライド (CY-18DR) は、付属の接続ケーブルを使って、ドラム音源背面の DIGITAL TRIGGER IN 端子に接続します。
※ 1～3 のどこに接続しても構いません。



7 AC アダプターやヘッドホンを接続しよう

※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。

AC アダプター、ヘッドホンやアンプ内蔵スピーカーを接続します。
※ AC アダプターのコードは、ドラム音源底面のコード・フックを使って図のように固定してください。



左利き用のセッティングにする場合

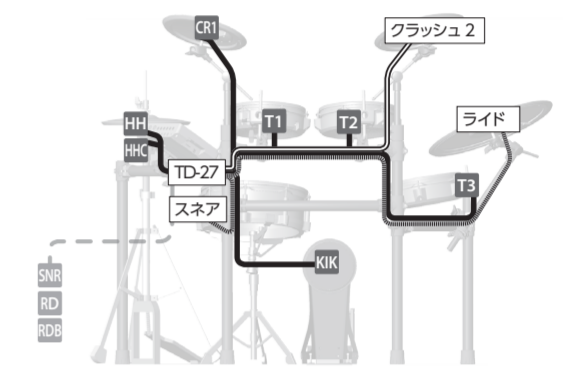
本ガイドで説明しているセッティングは右利き用です。左利き用にする場合は、ドラム・スタンドを「MDS-Standard 2 取扱説明書」の「左利き用に組み立てる場合」の手順に沿って組み立ててください。

- ケーブル類は、図 B のように接続します。
- クラッシュ 2 は、付属のトリガー・ケーブルを使って、ドラム音源の CRASH 2 端子に接続します。

図 A: 左利き用セッティング



図 B: TD-27KV 背面から見た図



これで、組み立てと接続が完了しました。

■ 接続が完了したら「TD-27 クイック・スタート」の手順に従って電源を入れ、音が鳴るかを確認してください。

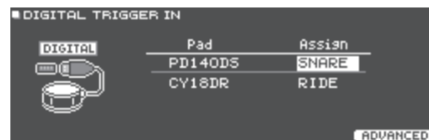
■ スネア (PD-140DS) とライド (CY-18DR) の設定

デジタル接続対応のパッド (PD-140DS と CY-18DR) を初めて DIGITAL TRIGGER IN 端子に接続すると、以下の画面が表示されます。画面に従って、PD-140DS をスネアに、CY-18DR をライドに設定します。



※ 専用接続ケーブルや TRIGGER IN 端子につないだパッドと同じトリガー・インプットに割り当てると、TRIGGER INPUT 端子と TRIGGER IN 端子に接続したパッドの音は出力されません。

- カーソル・ボタンで [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。



- カーソル・ボタンで [PD140DS] または [CY18DR] を選びます。
- ダイヤルで、[Assign] (アサイン) を設定します。

※ 同じアサインを複数設定することはできません。

設定例

Pad (パッド)	Assign (アサイン)
PD140DS	SNARE
CY18DR	RIDE

- [DRUM KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。
これで設定は完了です。

■ ハイハット (VH-10) の調整

ハイハット (VH-10) を使用するときは、接続したあとに必ずドラム音源 (TD-27) の操作でオフセット調整をしてください。
ハイハットのオープン、クローズペダルの動きを、正しく検出するために必要な設定です。

- ハイハットがモーション・センサー・ユニットから完全に離れた状態で、ドラム音源の電源を入れます。



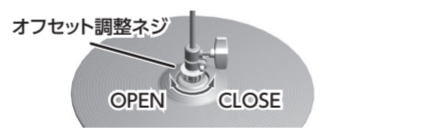
- VH-10 のクラッチ・スクリューをゆるめ、ハイハットをモーション・センサー・ユニットの上に自然に置いた状態にします。

- [SYSTEM] ボタンを押します。
- カーソル・ボタンで [TRIGGER] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
- カーソル・ボタンで [HI-HAT] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

TRIGGER HI-HAT 画面が表示されます。



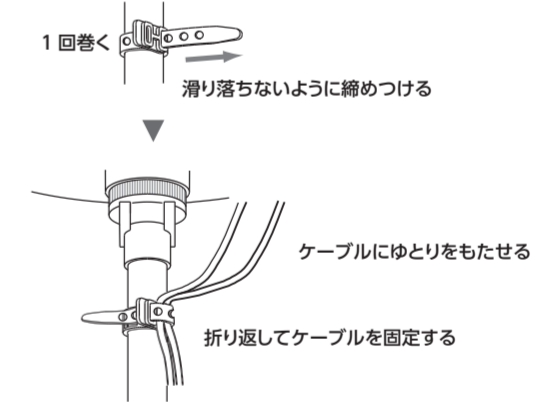
- ダイヤルで、Trig Type を [VH10] に設定します。
- 画面右側に表示されるメーターを見ながら、VH-10 のオフセット調整ネジを回して調整します。
メーターに ▶ ◀ が表示されるように調整します。



- 叩いたときにハイハットが自然にゆるむ位置で、クラッチ・スクリューをとめます。
- [DRUM KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

クローズ・ハイハットの音が鳴らづらい場合は、オフセット調整ネジを「CLOSE」の方向へ回します。
オープン・ハイハットの音が鳴らづらい場合は、「OPEN」の方向へ回します。
※ 強打時に音が途切れるときは、オフセット調整ネジを「OPEN」の方向へ回してください。

ハイハットのケーブルの固定方法



注意

- ご使用の年月とともに、パッドのゴム表面が変色することがありますが、使用上には影響ありません。
- ハイハット・クラッチをはずしてしまったり、「VH-10 取扱説明書」の「ハイハット・クラッチを取り外してしまったり」をご覧ください。

安全上のご注意

火災・感電・傷害を防止するには

△ 警告と △ 注意の意味について

警告	取り扱いは誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表示しています。
注意	取り扱いは誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみが発生が想定される内容を表示しています。 ※ 物的損害とは、家屋・家財および家具・ペットにかかわる重大損害を表示しています。

図記号の例

△	注意 (危険、警告を含む) を表しています。具体的な注意内容は、△の中に描かれています。左図の場合は、「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
○	禁止 (してはいけないこと) を表しています。具体的な禁止内容は、○の中に描かれています。左図の場合は、「分解禁止」を表しています。
●	強制 (必ずすること) を表しています。具体的な強制内容は、●の中に描かれています。左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を必ず守ってください

警告
指定のスタンドを使用する
本機の設置には、ローランドが推奨するスタンド (MDS-Standard 2) を使用してください。

警告
お子様がけがをしないように注意する
お子様がけがをしないよう注意する場合は、必ず大人のかたが、監視/指導をあげてください。

注意
不安定な場所に設置しない
本機の設置にスタンド (MDS-Standard 2) を使用する場合は、ぐらつような場所や傾いた場所に設置せず、安定した水平な場所に設置してください。機器を単独で設置する場合も、同様に安定した水平な場所に設置してください。

注意
落下したり、強い衝撃を与えたりしない
破損や故障の原因になります。

注意
スタンドへ設置するときの注意
取扱説明書の指示どおりに設置してください (TD-27KV セットアップ・ガイド 参照)。
正しく設置しないと、不安定な状態になって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。

注意
指定のスタンドのみ使用する
本機は当社製のスタンド (MDS-Standard 2) とのみ、組み合わせて使用できるように設計されています。他のスタンドと組み合わせて使うと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。

注意

スタンドを使う前に安全を確認する

取扱説明書に記載の注意事項が守られていても、取り扱いは誤った場合にはスタンドから本機が落下したり、スリッパが転倒したりする可能性があります。使用にあたっては事前に安全を確認した上でお使いください。

上に乗ったり、重いものを置いたりしない
転倒や落下によって、けがをする恐れがあります。

移動するときにはすべての接続をはずす
ケーブルを接続したまま移動すると、破損や故障の原因になります。

移動するときの注意
本機を移動するときには、必ず 2 人以上で水平に持ち上げて運んでください。このとき、手をはさんで、足の上に乗ったりしないように注意してください。

指などをはさまないように注意する
下記の可動部を操作するときは、指などをはさまないように注意してください。必ず大人のかたが操作してください。

小さな部品はお子様の手の届かないところに置く
下記の部品はお子様が誤って飲み込んだりすることのないよう手の届かないところに保管してください。

付属品
ケーブル・クリップ
ケーブル・タイ
ネジ類
ワッシャー類
ナット類
フェルト・ワッシャー

取はずしが可能な部品
ネジ類
ワッシャー類
ナット類
専用接続ケーブル付属の端子保護キャップ

● 蝶ネジ
● ドラム・キー

● スプリング
● ハンド・ノブ
● 専用接続ケーブル付属の端子保護キャップ

使用上のご注意

修理について

お客様が本機または付属品を分解 (取扱説明書に指示がある場合を除く)、改造された場合、以後の性能について保証できません。また、修理をお断りする場合があります。

当社は、本機の補修用性能部品 (製品の機能を維持するために必要な部品) を、製造打切後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。なお、保有期間を過ぎたあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご相談ください。

その他の注意について
故障の原因になりますので、ボタン、つまみ、入出力端子などに過度の力を加えないでください。

本機は、演奏時の打撃音を小さくする設計になっていますが、床や壁を打つての振動は意外によく伝わります。特にヘッドホン使用時の演奏は、隣近所に迷惑がからないように注意しましょう。

本機が入っている梱包箱や緩衝材を廃棄するときは、各地域のゴミの分別基準に従ってください。

本機は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。

知的財産権について

第三者の著作物 (音楽作品、映像作品、放送、実演、その他) の一部または全部を、権利者に無断で録音、録音、複製あるいは改変し、配布、販売、貸与、上演、放送などを行うことは法律で禁じられています。

第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本製品を使用しないでください。お客様が本製品を使用して他者の著作権を侵害しても、当社は一切責任を負いません。

製品に内蔵、付属されたコンテンツ (音色波形データ、スタイルデータ、伴奏パターン、フレーズデータ、オーディオ・ループ、画像データなど) の著作権は当社が保有しています。

製品に内蔵、付属されたコンテンツ (ただしデモ曲などの楽曲データは除く) を素材として、お客様が新たな作品を制作、演奏、録音、配布することに関しては、当社の許諾を必要としません。

製品に内蔵、付属されたコンテンツを、そのまま、もしくは酷似した形態で取り出し、別の記録媒体に固定して配布したり、コンピューター・ネットワークを通じて公開したりすることはできません。

SD ロゴ および SDHC ロゴ は SD-3C、LLC の商標です。

ASIO は、Steinberg Media Technologies GmbH の商標およびソフトウェアです。

本製品には、イーソル株式会社のソフトウェアプラットフォーム「eParts™」が搭載されています。

Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ローランドはこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

本製品は、T-Engine フォーラム (www.tron.org) の T-License 2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。

Roland、BOSS、V-Drums は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。

文中記載の会社名および製品名などは、各社の登録商標または商標です。